



行政

産業労働部 雇用労働政策課
主事 佐藤 文也

◎ 経歴（採用8年目）

2022年度～ 産業労働部 雇用労働政策課(うち1ヶ月育児休業)

2019年度～ 平鹿地域振興局 福祉環境部 企画福祉課

2016年度～ 企画振興部 地域活力創造課 活力ある集落づくり支援室

- ・ 2023年度からは、時差出勤制度やテレワーク制度を活用
- ・ 2024年2月に第二子出生のため、同年2月～3月育児取得予定！

◎ ある日のスケジュール

5:50	起床・家事
6:30	子どもの支度
7:20	自宅出発(電車)
8:45	出勤 ※ 時差出勤制度を利用
9:00	補助金の交付決定・支払伝票の処理
12:00	昼食
13:30	会議で使用する資料の作成
15:30	国家検定の合否決定
17:45	退庁(電車)
19:50	帰宅
20:00	子どもと入浴
21:00	子どもの歯磨き・寝かしつけ
22:00	家事
23:00	就寝

Q 育児休業を取得しようと思ったきっかけ（理由）は？

子供の日々の成長とともに過ごすことのできる、まとまった育児の期間がほしいと思ったのがきっかけです。実際、子供は目を離す間もないスピードで成長していくので、それを目の当たりにできる育休期間は、本当に最高の時間となりました。

Q 育児休業を取得することに不安はありませんでしたか？

上司や同僚に迷惑をかけないか不安はありましたが、人生で何度とない貴重な期間だと考え、思い切って育休取得を希望しました。県庁内でも男性職員の育休取得が推奨されており、上司や同僚も快諾してくれたので、安心して取得することができました。

Q 育児休業を取得した感想を教えてください。

育児の大変さを実感しました。子供は感情のままに、やっと寝付いたと思ったら泣き出したり、替えたばかりのおむつを汚したりしますよね。かわいい我が子とはいえ、思い通りにいかない毎日は大変でした。しかしながら、私が帰宅するまでの長い時間、家事育児をしてくれる妻の苦労とは比べものになりません。改めて、日々の妻の苦労に気付かされた休業期間でもありました。

Q 職場復帰はスムーズにできましたか？

スムーズに復帰することができました。職場からは、育休取得を前提に、年度初めから担当業務量を調整していただきました。また、担当業務の前任者が職場内に残ってくれたので、業務の引き継ぎは最小限で済みました。自身も、育休取得前から復帰後のスケジュールを組んでいましたので、問題なく職場復帰することができました。

Q 職場復帰後の子育てと仕事の両立はどうしていますか？

育休を経験してから、時間を意識して仕事をするようになりました。以前は「残った仕事は時間外にやれば良いか…」という考えでしたが、現在は電車通勤でもあるため、いかに時間内に仕事を終わらせて、家事育児と両立できるかを意識しています。仕事の内容に優先順位をつけて、段取りよく進めることを心がけるようになりました。

＼ 県職員を目指している方へメッセージ！ ／

テレワーク制度の導入や、時差出勤時間帯の拡充など、私が入庁した8年前から県職員としての働き方は大きく変化しており、本当に働きやすい職場になったと感じています。また、県職員は、広域かつ他分野における業務を経験でき、その知識や経験を基に、子育てやプライベートの時間も充実させることができます。